

# 平成 23 年度に実施した高等専門学校機関別 認証評価に関する検証結果報告書

平成 25 年 1 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構



## はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、認証評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、平成 17 年 7 月に文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）となつて以降、はじめての経験となつた平成 17 年度実施の高等専門学校機関別認証評価において、評価の終了後、評価対象校及び評価担当者へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行った。この結果、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握でき、平成 18 年度実施の認証評価に反映させた。同様に平成 18、19、20、22 年度実施の高等専門学校の機関別認証評価においても評価終了後、アンケート調査を実施し、検証を行いそれぞれ平成 19、20、22、23 年度実施の認証評価に改善点等を反映させた。（この検証結果は年度毎に「高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書」としてまとめている。）

平成 23 年度実施の高等専門学校機関別認証評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、ここに平成 23 年度実施の認証評価（6 高等専門学校）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。



# 目 次

はじめに

I 機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要・・・・・・・・・・ 1

II 平成 23 年度実施の認証評価に関する検証

1. 検証の実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2. 項目別の検証

(1) 評価基準及び観点について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

(2) 説明会・研修会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

(3) 自己評価書について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

(4) 書面調査・訪問調査について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

(5) 評価結果（評価報告書）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

(6) 評価の効果・影響について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

(7) 評価の作業量等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

(8) 前回の認証評価受審の効果・影響及び認証評価プロセスの改善  
について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

(9) 評価についての全般的な意見・感想について・・・・・・・・・・・・ 30

3. 総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

参考資料

- 1 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
- 2 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
- 3 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
- 4 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
- 5 認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】
- 6 認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】



## I 機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要

平成 23 年度に実施した認証評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した高等専門学校の機関別認証評価の概要について触れておく。

高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、7 年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられている（学校教育法第 109 条、同法第 123 条及び学校教育法施行令第 40 条）。

機構は、この認証評価制度の下で、高等専門学校の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成 17 年 7 月、文部科学大臣から認証され、平成 17 年度より認証評価を開始した。平成 23 年度実施の認証評価は 7 年目の実施に当たる。なお、平成 23 年度から、機構が実施する評価の第 2 サイクル期間に移行した。

### 1. 目的

認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行った。

- (1) 機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。
- (2) 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (3) 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

### 2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校の状況に応じた評価部会等を編成した。

評価部会等には、各高等専門学校の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象高等専門学校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

### 3. 方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

#### (1) 高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、『自己評価実施要項』に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成し、機構に提出した。

#### (2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象高等専門学校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象高等専門学校の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、高等専門学校全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。  
なお、基準の多くが、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。基準を満たしているかどうかの判断は、その基本的な観点の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。
- ④ 基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合や、基準を満たしているが、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。
- ⑤ 高等専門学校全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての高等専門学校が機構の高等専門学校評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準がある場合には、高等専門学校全体として高等専門学校評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしている。）

### 4. スケジュール

- (1) 平成 22 年 6 月に、平成 23 年度に機構が実施する認証評価に申請を予定している高等専門学校のうち、説明を希望する高等専門学校の関係者に対し、高等専門学校機関別認証評価の仕組み、方法等について説明会を実施した。
- (2) 平成 22 年 8 月から 9 月にかけて、以下の 6 高等専門学校から申請を受け、評価を実施することとなった。

○ 国立高等専門学校（6 高等専門学校）

旭川工業高等専門学校、八戸工業高等専門学校、沼津工業高等専門学校、  
明石工業高等専門学校、広島商船高等専門学校、阿南工業高等専門学校

- (3) 平成 22 年 12 月に、当該高等専門学校の自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。
- (4) 平成 23 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、高等専門学校評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。
- (5) 平成 23 年 6 月末に、対象高等専門学校から自己評価書の提出を受けた。
- (6) 対象高等専門学校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは次のとおりであった。

23 年 7 月	書面調査の実施
8 月	評価部会、財務専門部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～11 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象高等専門学校の状況を調査）
12 月	評価部会、財務専門部会の開催（評価結果（原案）の作成）

- (7) これらの調査結果を踏まえ、平成 24 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。
- (8) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 24 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

## 5. 評価結果

平成 23 年度に認証評価を実施した 6 高等専門学校のすべてが、機構の定める高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果となった。

機構はこの評価結果を平成 24 年 3 月 29 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 高等専門学校評価基準（機関別認証評価）は機構ウェブサイトを参照のこと。

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/kousen/index.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/index.html)

## Ⅱ 平成 23 年度実施の認証評価に関する検証

### 1. 検証の実施方法

#### (1) アンケート調査の実施

平成 23 年度実施の認証評価の対象高等専門学校（以下「対象校」という。）及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は次のとおりである。

[対象校]

1. 評価基準及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
  - (1) 自己評価について
  - (2) 訪問調査等について
  - (3) 意見の申立てについて
3. 評価の作業量、スケジュール等について
  - (1) 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について
  - (2) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
  - (3) 評価のスケジュールについて
4. 説明会・研修会等について
5. 評価結果（評価報告書）について
  - (1) 評価報告書の内容等について
  - (2) 自己評価書及び評価報告書の公表について
  - (3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
  - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
  - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について
8. 評価の実施体制について
9. 前回の認証評価を受審したことによる効果・影響について
10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて
11. その他

[評価担当者]

1. 評価基準及び観点について

2. 評価の方法及び内容・結果について
  - (1) 自己評価書について
  - (2) 書面調査について
  - (3) 訪問調査について
  - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
  - (1) 評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について
  - (2) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
  - (3) 評価作業にかかった時間数について
5. 評価部会等の運営について
6. 評価全般について
7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

## (2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査項目から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 評価基準及び観点について
- (2) 説明会・研修会について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価の効果・影響について
- (7) 評価の作業量等について
- (8) 前回の認証評価受審の効果・影響及び認証評価プロセスの改善について
- (9) 評価についての全般的な意見・感想について

### ※アンケート調査に係る補足事項

#### 1. アンケート用紙配付日程

	平成 23 年度
対象校	平成 24 年 3 月 30 日
評価担当者	平成 23 年 12 月 26 日

2. 平成 23 年度アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	6 校中 6 校	100%
評価担当者	12 名中 10 名	83%

## 2. 項目別の検証

### (1) 評価基準及び観点について

機構が定める評価基準及び観点の構成や内容が、高等専門学校の研究活動等に関する「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして適切であったか、また、評価基準及び観点の中で対象校が自己評価を行う際に評価しにくいもの、評価担当者が評価しにくいものがあったかどうかなどについて検証を行った。

#### ①評価の目的等との関係について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」（機関1-①、評1-①\*）か及び「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」（機関1-②、評1-②）か質問したところ、対象校では、「質の保証」に対して、肯定的な回答が67%（「強くそう思う」50%、「そう思う」17%）、「どちらとも言えない」が33%、「改善の促進」に対して、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。一方、評価担当者では、「質の保証」に対して、肯定的な回答が90%（「強くそう思う」10%、「そう思う」80%）、「どちらとも言えない」が10%、「改善の促進」に対して肯定的な回答が80%（「強くそう思う」30%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が20%であった。

また、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」（機関1-③、評1-③）かとの質問に対しては、対象校では肯定的な回答が83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が17%、評価担当者では肯定的な回答が80%（「強くそう思う」10%、「そう思う」70%）、「どちらとも言えない」が20%であった。

次に、評価基準及び観点の構成や内容を、「教育活動を中心に設定していることは適切であった」（機関1-④、評1-④）かとの質問に対しては、対象校では肯定的な回答が84%（「強くそう思う」67%、「そう思う」17%）、「どちらとも言えない」が17%、評価担当者では肯定的な回答が100%（「強くそう思う」44%、「そう思う」56%）であった。

#### ②具体の評価基準及び観点について

---

※「機関〇-〇」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】」における設問番号に対応  
「評〇-〇」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】」における設問番号に対応  
設問の回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価しにくい評価基準又は観点が  
あった」(機関1-⑤)か質問したところ、「ある」が17%、「ない」が83%であった。  
一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「評価しにくい評価基準又は観  
点があった」(評1-⑤)か質問したところ、「ある」が30%、「ない」が70%であ  
った。

次に、対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「内容が重複する  
評価基準又は観点があった」(機関1-⑥、評1-⑥)か質問したところ、対象校では  
「ある」が17%、「ない」が83%、評価担当者では「ある」が11%、「ない」が89%  
であった。

### ③評価と課題

評価基準及び観点の構成や内容は、対象校及び評価担当者から肯定的に評価され  
ており、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの  
理解と支持」という評価の目的に照らして概ね適切なものと考えられる。また、評  
価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることも適切である  
と考えられる。

評価しにくい、あるいは内容が重複する評価基準又は観点があったかについては、  
平成23年度実施分から評価基準を見直し、観点の追加や統合を行ったことにより、  
概ね肯定的な回答が得られているものの、まだ一部に評価しにくい評価基準又は観  
点があるとの回答も寄せられている。なお、今後も引き続き、説明会等で対象校の  
評価基準及び観点についての理解を深める必要があると考えられる。

## (2) 説明会・研修会について

高等専門学校の関係者を対象に実施している説明会や、機構の評価を希望する高等専門学校の自己評価担当者等を対象に実施している研修会について、その有効性等の検証を行った。また、評価担当者を対象に実施している研修の内容の適切性等について検証を行った。

### ①認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価説明会に関して、「説明会の内容は役立った」(機関4-③)か質問したところ、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が17%であった。また、「説明会の内容は理解しやすかった」(機関4-②)かと質問したところ、肯定的な回答が66%（「強くそう思う」33%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が33%、「説明会の配付資料は理解しやすかった」(機関4-①)かと質問したところ、肯定的な回答が67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が33%であった。

次に、自己評価担当者等に対する研修会に関して、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った」(機関4-⑥)か質問したところ、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「否定的な回答が17%（「そう思わない」17%）であった。また、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった」(機関4-⑤)かと質問したところ、肯定的な回答が66%（「強くそう思う」33%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が33%、「自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった」(機関4-④)かとの質問については、肯定的な回答が66%（「強くそう思う」33%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が33%であった。なお、「機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った」(機関4-⑦)かと質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。

さらに、訪問説明に関して、「機構が行った訪問説明は役立った」(機関4-⑧)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」75%、「そう思う」25%）であった。

また、「説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった」(機関4-⑨)かとの質問については、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

### ②評価担当者に対する研修について

評価担当者に対するアンケート調査において、評価担当者に対する研修に関して、「研修の内容は役立った」(評3-③)か質問したところ、肯定的な回答が86%（「強

くそう思う」29%、「そう思う」57%)、「どちらとも言えない」が14%であった。また、「研修の説明内容は理解しやすかった」(評3-②)かとの質問については、肯定的な回答が71%（「そう思う」71%)、「どちらとも言えない」が29%、「研修の配付資料は理解しやすかった」(評3-①)かとの質問については、肯定的な回答が71%（「そう思う」71%)、「どちらとも言えない」が29%であった。また、「自己評価書のサンプルの提示は役立った」(評3-④)かについては、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」14%、「そう思う」57%)、「どちらとも言えない」が29%であった。また、「研修に費やした時間の長さは適切であった」(評3-⑤)か質問したところ、肯定的な回答が57%（「そう思う」57%)、「どちらとも言えない」が43%であった。

### ③評価と課題

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会については、対象校から肯定的に評価されており、実施内容、配付資料のほか、訪問説明や機構の事務担当者の対応等は概ね適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修についても、評価担当者から肯定的に評価されており、実施内容、説明内容、配付資料のほか、自己評価書のサンプルの提示、実施時間は概ね適切であると考えられる。

### (3) 自己評価書について

評価の実施に当たり対象校が作成した自己評価書が、機構の定める評価基準及び観点に基づき、評価を行う上で適切なものとなっていたか、また、添付資料が適切であったかなどについて検証を行った。

#### ①自己評価書の記述について

対象校に対するアンケート調査において、「評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた」(機関2-(1)-①)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた」(評2-(1)-②)か質問したところ、肯定的な回答が50%（「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が50%であった。

また、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた」(機関2-(1)-④)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「そう思う」100%）であった。また、「自己評価書の完成度は満足できるものであった」(機関2-(1)-⑤)かとの質問については、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」17%、「そう思う」83%）であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」(評2-(1)-①)か質問したところ、肯定的な回答が20%（「そう思う」20%）、「どちらとも言えない」が70%、否定的な回答が10%（「そう思わない」10%）であった。

また、「自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった」(機関2-(1)-⑥)か質問したところ、肯定的な回答が67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が17%、否定的な回答が17%（「そう思わない」17%）であった。

このほか、「自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした」(機関2-(1)-⑦)かとの質問については、「参考にした」が50%、「参考にしなかった」が50%であった。

#### ②自己評価書の添付資料について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた」(機関2-(1)-②)か質問したところ、肯定的な回答が50%（「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が50%であった。また、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」(機関2-(1)-③)かとの質問については、「迷った」が50%、「迷っていない」が50%であった。

ない」が50%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」（評2-（1）-③）か質問したところ、肯定的な回答が30%（「そう思う」30%）、「どちらとも言えない」が60%、否定的な回答が10%（「そう思わない」10%）であった。

### ③評価と課題

自己評価書の記述について、対象校では、評価基準及び観点に基づいた適切な自己評価により、分かりやすく完成度の高い自己評価書が作成されたと認識している。一方、評価担当者からは、評価基準及び観点の内容は概ね適切に記述されていたものの、理解しやすさについては肯定的な回答が必ずしも多いとは言えず、自由記述においても、書きぶりの統一がなされていない、字数制限が正しく理解されていないといった意見も寄せられていることから、今後も引き続き、説明会等で自己評価書の書き方について対象校の理解を深めるとともに、対象校においては自己評価書全体の記述内容を通読して管理監督する担当者が必要であることを強調することが求められる。なお、自己評価書作成に当たっての字数制限については、概ね適切な量であったと考えられる。このほか、対象校の回答から、自己評価書の作成に当たり、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を半数程度の対象校が参考としていることが分かる。

また、自己評価書の添付資料について、対象校は、既に蓄積していたものである程度対応できているが、どのようなものを用意すればよいかについては、否定的な回答も寄せられている。一方、自己評価書に必要な根拠資料が引用・添付されていたかについては、評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多くないため、今後も引き続き、説明会等で添付資料についての対象校の理解を深める工夫が必要である。

#### (4) 書面調査・訪問調査について

対象校から提出された自己評価書等に基づき、評価部会において評価担当者が対象校の状況を分析する書面調査について、分析の方法、事実誤認の有無を確認するために通知する「書面調査による分析状況」の内容が適切であったかについて検証した。また、書面調査の後、対象校を訪問して書面調査では確認できない事項等を中心に調査する訪問調査について、その内容や方法、あらかじめ通知する「訪問調査時の確認事項」の内容が適切であったかなどについて検証を行った。

##### ①書面調査による分析について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」(機関2-(2)-①)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。

また、評価担当者に対するアンケート調査において、書面調査の分析内容を記入するために、「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」(評2-(2)-①)か質問したところ、肯定的な回答が70%（「強くそう思う」10%、「そう思う」60%）、「どちらとも言えない」が30%であった。

また、「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった」(評2-(2)-②)か質問したところ、肯定的な回答が20%（「そう思う」20%）、「どちらとも言えない」が70%、否定的な回答が10%（「全くそう思わない」10%）であった。

##### ②訪問調査時の確認事項について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」(機関2-(2)-②)か質問したところ、肯定的な回答が66%（「強くそう思う」33%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が33%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった」(評2-(3)-①)か質問したところ、肯定的な回答が76%（「強くそう思う」13%、「そう思う」63%）、「どちらとも言えない」が25%であった。

##### ③訪問調査の実施内容について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く）が質問した内容は適切であった」(機関2-(2)-③)か質問したところ、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

また、「訪問調査の実施内容として高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった」（機関2-（2）-④）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）、「訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった」（機関2-（2）-⑤）か質問したところ、肯定的な回答が84%（「強くそう思う」17%、「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が17%、「訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった」（機関2-（2）-⑥）か質問したところ、肯定的な回答が67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が17%、否定的な回答が17%（「そう思わない」17%）であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった」（評2-（3）-③）か質問したところ、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」57%、「そう思う」29%）、「どちらとも言えない」が14%、「訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった」（評2-（3）-④）か質問したところ、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」14%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が29%、「訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった」（評2-（3）-⑤）か質問したところ、肯定的な回答が57%（「強くそう思う」14%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が29%、否定的な回答が14%（「そう思わない」14%）であった。

次に、「訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた」（評2-（3）-②）かとの質問については、肯定的な回答が100%（「そう思う」100%）であった。

さらに、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」（機関2-（2）-⑦）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」（評2-（3）-⑥）か質問したところ、肯定的な意見が71%（「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が29%であった。

#### ④訪問調査時の人数・構成等について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（機関2-（2）-⑧）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（評2-（3）-⑦）か質問したところ、肯定的な回答が57%（「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が43%であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う」（機関2-（2）-⑨）か質問したところ、肯定的な回答が67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が33%であった。

また、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった」（評2-（3）-⑧）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」71%、「そう思う」29%）であった。

## ⑤評価と課題

書面調査による分析については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、訪問調査の前に提示した「書面調査による分析状況」の内容や、機構が示した書面調査票等の様式は概ね適切であると考えられる。なお、書面調査を行うために対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかったとの回答は必ずしも多くはないが、今後も要望を把握していくことが求められる。

また、訪問調査についても、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、訪問調査の前に提示した「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校からの回答内容、訪問調査前の評価担当者による質問内容や訪問調査の具体的な実施内容や方法、時間配分、評価担当者の人数や構成、機構の事務担当者の対応は概ね適切であると考えられる。また、訪問調査によって不明な点を十分に確認でき、対象校と機構の評価担当者との間で教育研究活動等の状況に関する共通理解を概ね得ることができているとともに、評価担当者への研修についても、概ね適切であると考えられる。

## (5) 評価結果（評価報告書）について

機構の作成した評価報告書の内容や意見申立ての実施方法等が適切なものであったかについて検証を行った。

### ① 評価報告書の内容について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった」（機関5-(1)-⑨）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった」（機関5-(1)-①）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった」（機関5-(1)-②）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった」（機関5-(1)-③）か質問したところ、「質の保証」については、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）、「改善の促進」については、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）、「社会からの理解と支持」については、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

また、「評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた」（機関5-(1)-⑦）か質問したところ、肯定的な回答が50%（「強くそう思う」33%、「そう思う」17%）、「どちらとも言えない」が50%であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった」（機関5-(1)-④）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）、「評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった」（機関5-(1)-⑤）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」83%、「そう思う」17%）、「評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった」（機関5-(1)-⑥）か質問したところ、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、否定的な回答が17%（「そう思わない」17%）であった。

さらに、評価報告書の記述について、「評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった」（機関5-(1)-⑧）か質問したところ、肯定的な回答が84%（「強くそう思う」67%、「そう思う」17%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」（評2-(4)-①）か質問したところ、肯定的な回答が80%（「強くそう思う」20%、「そう思う」60%）、「どちらとも言えない」が20%であった。

次に、「基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示す

という方法は適切であった」(評2-(4)-②)か質問したところ、肯定的な回答が80%、「強くそう思う」10%、「そう思う」70%)、「どちらとも言えない」が10%、否定的な回答が10%、「そう思わない」10%)、「評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった」(評2-(4)-④)かとの質問については、肯定的な回答が80%、「強くそう思う」10%、「そう思う」70%)、「どちらとも言えない」が20%であった。

また、「評価結果全体としての分量は適切であった」(評2-(4)-③)か質問したところ、肯定的な回答が80%、「そう思う」80%)、「どちらとも言えない」が10%、否定的な回答が10%、「そう思わない」10%)であった。

## ②評価報告書等の公表について

対象校に対するアンケート調査において、「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している」(機関5-(2)-①)か質問したところ、「公表している」が100%であった。

また、「評価報告書をウェブサイトなどで公表している」(機関5-(2)-②)かとの質問については、「公表している」が100%であった。

次に、「評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた」(機関5-(3)-①)か質問したところ、肯定的な回答が25%、「強くそう思う」25%)、「どちらとも言えない」が75%であった。

## ③意見の申立てについて

対象校に対するアンケート調査において、「意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった」(機関2-(3)-①)かと質問したところ、肯定的な回答が100%、「強くそう思う」50%、「そう思う」50%)であった。

また、「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった」(機関2-(3)-②)かと質問したところ、肯定的な回答が50%、「強くそう思う」50%)、「どちらとも言えない」が33%、否定的な回答が17%、「そう思わない」17%)であった。

## ④評価と課題

評価報告書の内容については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らして適切なものであると考えられる。また、評価報告書は教育研究活動等に関して新たな視点が得られるものであり、構成及び内容が分かりやすく、評価担当者の書面調査、訪問調査の内容が評価結果

に十分反映されており、評価の方法や記述形式、全体の分量は適切であり、総じて内容は適切なものであると考えられる。

評価報告書等の公表については、全ての対象校が今回の評価のために作成した自己評価書及び評価報告書をウェブサイト等で公表している。しかしながら、評価結果に関するマスメディア等からの報道の適切性についての対象校からの肯定的な回答は必ずしも多くない。機構としては、平成 23 年度は、認証評価機関 10 機関により組織される認証評価機関連絡協議会の下で、他の認証評価機関と合同で認証評価結果の記者発表を行うといった取組を行っているところではあるが、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

今回の機関別認証評価においては意見申立てを行った対象校はなかったが、意見申立ての実施方法やスケジュール、内容や対応の評価報告書への掲載については概ね適切であると考えられる。

## (6) 評価の効果・影響について

今回の評価のために自己評価を実施したことや評価結果を受けたこと、対象校に対して評価を実施したことがどのような効果・影響を与えたか、また評価結果をどのように活用しているかについて検証を行った。

### ①自己評価を行ったことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価を受けるに当たって自己評価を行ったことによる効果・影響について、「貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた」(機関6-(1)-①)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強く思う」67%、「そう思う」33%）、「貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた」(機関6-(1)-②)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強く思う」33%、「そう思う」67%）であった。

次に、教職員の意識への効果・影響について、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した」(機関6-(1)-③)か質問したところ、肯定的な回答が67%（「強く思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が33%であった。「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した」(機関6-(1)-④)かとの質問については、肯定的な回答が67%（「強く思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が33%であった。「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した」(機関6-(1)-⑨)かとの質問については、肯定的な回答が84%（「強く思う」17%、「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

また、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した」(機関6-(1)-⑩)かとの質問については、肯定的な回答が83%（「そう思う」83%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

さらに、「貴校の教育研究活動等の改善を促進した」(機関6-(1)-⑤)かとの質問については、肯定的な回答が83%（「強く思う」50%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が17%であった。「貴校のマネジメントの改善を促進した」(機関6-(1)-⑦)かとの質問については、肯定的な回答が67%（「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が33%であった。

また、「貴校の個性的な取組を促進した」(機関6-(1)-⑧)かとの質問については、肯定的な回答が100%（「強く思う」33%、「そう思う」67%）であり、「貴校の将来計画の策定に役立った」(機関6-(1)-⑥)かとの質問については、肯定的な回答が67%（「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が33%であった。

### ②評価結果を受けたことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、評価結果を受けて今後どのような効

果・影響があると思うか質問したところ、「貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる」(機関6-(2)-①)かとの質問については、肯定的な回答が100% (「強くそう思う」50%、「そう思う」50%)、「貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる」(機関6-(2)-②)かとの質問については、肯定的な回答が100% (「強くそう思う」33%、「そう思う」67%)であった。

次に、教職員の意識への効果、影響について、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する」(機関6-(2)-③)かとの質問については、肯定的な回答が67% (「強くそう思う」17%、「そう思う」50%)、「どちらとも言えない」が33%であった。「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する」(機関6-(2)-④)かとの質問については、肯定的な回答が84% (「強くそう思う」17%、「そう思う」67%)、「どちらとも言えない」が17%、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する」(機関6-(2)-⑨)かとの質問については、肯定的な回答が67% (「強くそう思う」17%、「そう思う」50%)、「どちらとも言えない」が33%、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する」(機関6-(2)-⑪)かとの質問については、肯定的な回答が83% (「そう思う」83%)、「どちらとも言えない」が17%であった。

また、「教職員に評価結果の内容が浸透する」(機関6-(2)-⑩)か質問したところ、肯定的な回答が66% (「強くそう思う」33%、「そう思う」33%)、「どちらとも言えない」が33%であった。

次に、「貴校の将来計画の策定に役立つ」(機関6-(2)-⑥)かとの質問については、肯定的な回答が84% (「強くそう思う」17%、「そう思う」67%)、「どちらとも言えない」が17%であり、「貴校の個性的な取組を促進する」(機関6-(2)-⑧)かとの質問については、肯定的な回答が100% (「強くそう思う」67%、「そう思う」33%)であった。

また、「貴校の教育研究活動等の質が保証される」(機関6-(2)-⑫)かとの質問については、肯定的な回答が100% (「強くそう思う」33%、「そう思う」67%)であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う」(評6-①)か質問したところ、肯定的な回答が80% (「強くそう思う」10%、「そう思う」70%)、「どちらとも言えない」が20%であった。

さらに、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の教育研究活動等の改善を促進する」(機関6-(2)-⑤)かとの質問については、肯定的な回答が100% (「強くそう思う」17%、「そう思う」83%)、「貴校のマネジメントの改善を促進する」(機関6-(2)-⑦)かと質問したところ、肯定的な回答が83% (「そう思う」83%)、「どちらとも言えない」が17%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思

う」(評6-②)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」10%、「そう思う」90%）であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる」（機関6-（2）-⑬）か質問したところ、肯定的な回答が50%（「強くそう思う」17%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が50%であり、「広く社会の理解と支持が得られる」（機関6-（2）-⑭）かとの質問については、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」33%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が17%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う」（評6-③）か質問したところ、肯定的な回答が50%（「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が50%であった。

また、「他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする」（機関6-（2）-⑮）かとの質問については、肯定的な回答が67%（「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が33%であった。

### ③評価結果の活用について

対象校における今後の評価結果の活用予定について質問（複数回答可）したところ、「貴校の広報誌に評価結果を掲載する」が83%、「貴校のウェブサイトで評価結果を公表する」が100%、「学生募集の際に用いる」が33%、「共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる」が17%であった。

また、機構の評価を受けたことを契機に、実施を予定している（または実施済みの）変更・改善の取組として、対象校から次の事例が挙げられた。なお、文末【 】内の数字は、変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度を対象校が示したものである。

【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（基準1）「高等専門学校の目的」

- ・（課題）特に準学士課程の学生への学校の目的や教育目標についての認知度が低い。

（変更・改善）教務委員会で検討し、以下の2点の対応を行った。

1. 学級日誌に教育目標を載せる

2. 各学科の教育目標を簡潔な言葉で言い表す【5】

- ・（課題）学生便覧では、総合システム工学プログラムの内容を説明する項目の後に準学士課程の内容を説明する項目が配置されており、学生への周知を考慮し

た配置となっていない。

(変更・改善) 指摘を受けた内容について検討し、平成 24 年度の学生便覧から既に改善を行った。【4】

(基準5)「教育内容及び方法」

- ・(課題) 準学士課程の教育目的等についてわかりにくい。  
(変更・改善) 学生便覧、学校要覧に明記した。【5】
- ・(課題) 学生及び教職員への、本校の教育理念・学習教育目標などの周知度が一部不十分であることが自己評価書作成の準備段階でわかった。  
(変更・改善) 学内へのパネルの設置や教室への掲示をするなどの対策を施して周知度の向上を図ることができた。【3】
- ・(課題) 学修単位科目について、シラバスでの記載を含め具体的な事前・事後の学習等の指導が十分ではない。  
(変更・改善) 平成 24 年度より、学修単位科目について、シラバスでの記載を含め、ご指摘の事項を改善する。【4】
- ・(課題) 専攻科課程でのインターンシップへの取組が十分でない。  
(変更・改善) 専攻科課程におけるインターンシップの充実を図る。【5】
- ・(課題) 準学士課程と専攻科課程の教育目標を明確に区分する。  
(変更・改善) モデル・コア・カリキュラムとコース制がスタートする(予定)平成 26 年度に明確化する。【4】

(基準6)「教育の成果」

- ・(課題) 訪問調査の結果報告の中で、「学生による達成度評価は行われているが、それに対する学生の関心と認知度が低い」という講評を頂いた。  
(変更・改善) 達成度評価の実施方法も含め改善の検討を開始している。【3】
- ・(課題) 準学士課程における(中略)学習目標の細目設定及び記述内容に一部専攻科課程との区別が不明瞭な部分がある。  
(変更・改善) 課程の区分を明確にした学習目標の細目設定等の見直しを進めている。【5】
- ・(課題) 専攻科課程において、学習・教育目標「(A) 豊かな人間性と社会的責任感の育成」に必要な授業科目が十分でない。  
(変更・改善) 専攻科教育課程の大幅な改定を検討している。【5】

#### ④評価と課題

対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響については、対象校から肯定的に評価されており、教育研究活動等の全般的な状況や今後の課題の把握及び改善の

促進、評価に関する教職員の知識や技術の向上、教育研究活動等の組織的な運営や自己評価についての重要性の教職員への浸透、各教員の教育研究活動等に取り組む意識の向上、マネジメントの改善促進、個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与に概ね有効であると考えられる。

対象校が評価結果を受けたことによる効果・影響については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、教育研究活動等の全般的な状況や今後の課題の把握及び改善の促進、評価に関する教職員の知識や技術の向上、教育研究活動等の組織的な運営や自己評価についての重要性の教職員への浸透に、概ね有効と考えられる。また、各教員の教育研究活動等に取り組む意識の向上、マネジメントの改善促進、個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与、教職員への評価結果の内容の浸透、教育研究活動等の質の保証及び改善の促進、学生や社会からの理解と支持にも、概ね有効であると考えられる。さらに、他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にすることにも効果・影響があると考えられる。

評価結果の活用については、対象校から具体的な改善取組事例が挙げられ、対象校が評価結果をもとに実際に教育研究活動等の改善・向上に取り組んでいることが分かる。今後も引き続き、機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

## (7) 評価の作業量等について

今回の評価の実施に係る作業量や作業期間がどうであったかを対象校、評価担当者の双方について検証を行った。

### ①評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の作成」(機関3-(1)-①)に関して、作業量については、「大きい」とする回答が83%（「とても大きい」50%、「大きい」33%）、「適当」が17%であった。また、作業期間については、「長い」とする回答が50%（「とても長い」33%、「長い」17%）、「適当」が50%であった。

次に、「訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応」(機関3-(1)-②)に関して、作業量については、「大きい」とする回答が67%（「とても大きい」17%、「大きい」50%）、「適当」が33%であった。また、作業期間については、2～3週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」とする回答が17%（「長い」17%）、「適当」が33%、「短い」とする回答が50%（「とても短い」33%、「短い」17%）であった。

続いて、「訪問調査のための事前準備」(機関3-(1)-③)に関して、作業量については、「大きい」とする回答が67%（「大きい」67%）、「適当」が33%であった。また、作業期間については、4週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」とする回答が33%（「長い」33%）、「適当」が50%、「短い」とする回答が17%（「短い」17%）であった。

次に、「訪問調査当日の対応」(機関3-(1)-④)に関して、作業量については、「大きい」とする回答が50%（「大きい」50%）、「適当」が33%、「小さい」とする回答が17%（「とても小さい」17%）であった。また、作業期間については、1校当たり1日半の日程としているが、これについて「長い」とする回答が33%（「長い」33%）、「適当」が50%、「短い」とする回答が17%（「とても短い」17%）であった。

さらに、「意見の申立て」(機関3-(1)-⑤)に関して、作業量については、「適当」が80%、「小さい」とする回答が20%（「小さい」20%）であった。作業期間については、4週間程度の期間を設けているが、「適当」が80%、「短い」とする回答が20%（「短い」20%）であった。

評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書の書面調査」(評4-(1)-①)「自己評価書の書面調査」に関して、作業量については、評価担当者1人当たり平均で56.5時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が75%（「とても大きい」25%、「大きい」50%）、「適当」が25%であった。また、作業期間については、7月からの1ヶ月程度の期間を設定しているが、これについて「長い」とする回答が11%（「とても長い」11%）、「適当」が67%、「短い」とす

る回答が22%（「短い」22%）であった。

次に「訪問調査への参加」（評4-（1）-②）に関して、作業量については、評価担当者1人当たり平均で16.4時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が50%（「とても大きい」17%、「大きい」33%）、「適当」が50%であった。また、作業期間については、1校当たり1日半の日程としているが、これについて「長い」とする回答が14%（「とても長い」14%）、「適当」とする回答が57%、「短い」とする回答が29%（「短い」29%）であった。

さらに、「評価結果（原案）の作成」（評4-（1）-③）に関して、作業量については、評価担当者1人当たり平均で9.17時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が38%（「とても大きい」13%、「大きい」25%）、「適当」が63%であった。また、作業期間については、「長い」とする回答が13%（「とても長い」13%）、「適当」が75%、「短い」とする回答が13%（「短い」13%）であった。

## ②評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

対象校に対するアンケート調査において、評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったかについて質問したところ、「貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（機関3-（2）-①）かとの質問については、肯定的な回答が50%（「強くそう思う」33%、「そう思う」17%）、「どちらとも言えない」が50%、「貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった」（機関3-（2）-②）かとの質問については、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」50%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が17%、「貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（機関3-（2）-③）かとの質問については、肯定的な回答が67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が33%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、評価に費やした労力が「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったかについて質問したところ、「対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（評4-（2）-①）かとの質問については、肯定的な回答が89%（「そう思う」89%）、「どちらとも言えない」が11%、「対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった」（評4-（2）-②）かとの質問については、肯定的な回答が89%（「そう思う」89%）、「どちらとも言えない」が11%、「対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（評4-（2）-③）かとの質問については、肯定的な回答が56%（「そう思う」56%）、「どちらとも言えない」が44%であった。

### ③評価のスケジュールについて

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった」（機関3-（3）-①）か質問したところ、「適当である」が100%であった。

また、「訪問調査の実施時期（10月上旬～12月中旬）は適当であった」（機関3-（3）-②）かとの質問については、「適当である」が100%であった。

### ④評価と課題

評価に費やした対象校の作業量及び機構が設定した作業期間については、意見の申立てに係る作業量及び作業期間は肯定的に評価されており、適切であると考えられるが、自己評価書の作成や「訪問調査時の確認事項」への対応、訪問調査の事前準備、訪問調査当日の対応に係る作業量及び作業期間については、作業量が多い、作業期間が長いあるいは短い、との回答に加え、自由記述においても、自己評価書の記述や根拠資料の選択及び収集に大きな労力、長い期間を要したという意見や、「訪問調査時の確認事項」への対応について、通知から回答までの期間にもう少し余裕がほしいとの意見が寄せられている。一方、対象校は評価作業に費やした労力については、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと評価している。これらのことから、対象校は、評価の目的には概ね見合うと考えているものの、評価に費やす作業に対して負担を感じていると考えられる。機構では説明会資料等において観点ごとの留意点や根拠データ例を示すなどの取組を行っているが、今後も引き続き、説明会等で対象校の理解を深めるとともに、評価の効率化に努める必要がある。

また、評価に費やした評価担当者の作業量及び作業期間については、自己評価書の書面調査に係る作業期間、訪問調査への参加、評価結果（原案）の作成に係る作業量及び作業期間は肯定的に評価されており、概ね適切であると考えられるが、自己評価書の書面調査に係る作業量については、大きいとの回答が寄せられている。一方、評価担当者が評価作業に費やした労力については、評価担当者から肯定的に評価されており、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと考えられる。これらのことから、評価担当者は、評価の目的には概ね見合うと考えているものの、評価に費やす作業量に負担を感じていると考えられることから、今後も引き続き、評価の効率化に努める必要がある。

評価のスケジュールについては、対象校から肯定的に評価されており、自己評価書の提出時期及び訪問調査の実施時期はいずれも適切であると考えられる。

## (8) 前回の認証評価受審の効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

前回の認証評価を受審したことが対象校にどのような効果・影響を与えたか、また対象校が前回の認証評価を受審した時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて検証を行った。

### ①前回の認証評価受審による効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、前回の認証評価を受審したことによりどのような効果・影響があったかについて、「教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった」(機関9-①)か、「教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった」(機関9-②)か、「教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった」(機関9-③)か質問したところ、「質の保証」については、肯定的な回答が50%（「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が50%、「改善の促進」については、肯定的な回答が67%（「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が33%、「社会からの理解と支持」については、肯定的な回答が17%（「そう思う」17%）、「どちらとも言えない」が83%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、前回の認証評価を受審したことによりどのような効果・影響があったかについて、「教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった」(評7-①)か、「教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった」(評7-②)か、「教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった」(評7-③)か質問したところ、「質の保証」については、肯定的な回答が33%（「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が67%、「改善の促進」については、肯定的な回答が63%（「強くそう思う」13%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が38%、「社会からの理解と支持」については、肯定的な回答が13%（「そう思う」13%）、「どちらとも言えない」が88%であった。

### ②前回受審時の評価プロセスとの比較について

対象校に対するアンケート調査において、前回受審時と比較して当機構の認証評価プロセスは改善されたか質問したところ、評価基準及び観点について、「評価基準及び観定の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった」(機関10-①)かとの質問については、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）、「評価基準及び観定に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった」(機関10-②)かとの質問については、肯定的な回答が84%（「強くそう思う」17%、「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

また、説明会・研修会について、「説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった」(機関10-⑥)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強

くそう思う」17%、「そう思う」83%）であった。

次に、訪問調査について、「訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった」（機関10-③）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」17%、「そう思う」83%）であった。

評価結果（評価報告書）については、「評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった」（機関10-⑦）か質問したところ、肯定的な回答が84%（「強くそう思う」17%、「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が17%、「貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった」（機関10-⑧）かとの質問については、肯定的な回答が67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が33%であった。しかし、「評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった」（機関10-⑨）かとの質問については、肯定的な回答が17%（「そう思う」17%）、「どちらとも言えない」83%であった。

また、評価の効果・影響について、「自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった」（機関10-⑩）か質問したところ、肯定的な回答が50%（「強くそう思う」17%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が50%、「機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった」（機関10-⑪）かとの質問については、肯定的な回答が84%（「強くそう思う」17%、「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

さらに、評価の作業量等について、「評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった」（機関10-④）か質問したところ、肯定的な回答が50%（「強くそう思う」17%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が33%、否定的な回答が17%（「そう思わない」17%）、「評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった」（機関10-⑤）かとの質問については、肯定的な回答が67%（「強くそう思う」17%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が33%であった。

### ③評価と課題

前回の認証評価受審による効果・影響については、教育研究活動等の「改善の促進」に関しては、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、概ね効果・影響があったと考えられる。一方、教育研究活動等の「質の保証」「社会からの理解と支持」に関しては、対象校及び評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多くなかったが、否定的な回答は見られず、「どちらとも言えない」という回答がやや多く見られた。

前回受審時の評価プロセスとの比較については、対象校から肯定的に評価されており、評価基準及び観点、説明会・研修会、訪問調査、評価結果（評価報告書）、評価の効果・影響、評価の作業量等について、概ね、前回の評価と比較して適切なも

のになったと考えられる。しかし、評価結果に関するマスメディア等の報道については、肯定的な回答が必ずしも多くなく、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

## (9) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(8)に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

### ・対象校からの意見・感想について

対象校から寄せられた意見・感想においては、機構の認証評価を受けた感想として、「期待通りであった」「内部の人間では気づきにくい外部の評価者による発言内容が、以降の情報発信内容の大きなヒントとなっている」等、期待どおりであったとする感想が寄せられた。一方で、「自己評価書作成にかかる労力の軽減に向けた改善を図ってほしい」という意見も寄せられた。

### ・評価担当者からの意見・感想について

評価担当者から寄せられた意見・感想においては、「大変良い勉強になった」と貴重な経験ができたとする感想がある一方で、『優れた点』『改善を要する点』等の候補について、共通認識を持つ時間がもう少しあってもよいのでは」「各観点は1項目につき、1点に絞った方がよい」「評価報告書は、正確に記述されていることはもちろんだが、“読みやすい”ということも重要な視点である」とする意見も寄せられた。

### 3. 総括

本報告書では、アンケート調査した項目のうち、主要な9つの事項、「(1) 評価基準及び観点について」「(2) 説明会・研修会について」「(3) 自己評価書について」「(4) 書面調査・訪問調査について」「(5) 評価結果(評価報告書)について」「(6) 評価の効果・影響について」「(7) 評価の作業量等について」「(8) 前回の認証評価受審の効果・影響及び認証評価プロセスの改善について」「(9) 評価についての全般的な意見・感想について」を整理・分類し、分析・評価した結果をまとめている。以下にその概要を述べ総括する。

#### (1) 評価基準及び観点について

評価基準及び観点の構成や内容は、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね適切なものであると考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であると考えられる。

評価しにくい、内容が重複する評価基準又は観点があったかについては、平成23年度実施分から評価基準を見直し、観点の追加や統合を行ったことにより、概ね肯定的な回答が得られているものの、まだ一部に評価しにくい評価基準又は観点があるとの回答も寄せられており、今後も引き続き、対象校の評価基準及び観点の理解を深めることが必要であると考えられる。

#### (2) 説明会・研修会について

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会の実施内容、配付資料、訪問説明や機構の事務担当者の対応等は概ね適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修の実施内容、説明内容、配付資料、自己評価書のサンプルの提示、研修時間は概ね適切であると考えられる。

#### (3) 自己評価書について

自己評価書については、評価基準及び観点の内容は概ね適切に記述されていると考えられるが、対象校では、完成度が高く、分かりやすい自己評価書が作成されたと認識している一方で、評価担当者からの理解しやすさについての肯定的な回答は必ずしも多いとは言えない。今後も引き続き、説明会等で自己評価書の書き方や全体の記述内容を通読して管理監督する担当者の必要性についての対象校の理解を深めることが必要である。なお、自己評価書の字数制限は概ね適切なものであると考えられる。

自己評価書の添付資料については、対象校から、どのようなものを用意すればよ

いか迷ったとの回答も寄せられている。また、自己評価書に必要な根拠資料が引用・添付されていたかについての評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多くない。今後も引き続き、説明会等で添付資料についての対象校の理解を深める工夫が必要である。

#### (4) 書面調査・訪問調査について

書面調査による分析については、「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式は概ね適切であると考えられる。また、客観的データ等の参考となる情報が必要との意見は必ずしも多くはないが、今後も要望を把握していく必要がある。

訪問調査については、「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校の回答内容、実施内容、人数及び構成、機構の事務担当者の対応等は概ね適切であると考えられる。また、訪問調査によって、不明な点が確認でき、機構の評価担当者 と対象校との間で共通理解を概ね得ることができていると考えられる。

#### (5) 評価結果（評価報告書）について

評価報告書の内容については、評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らして適切なものであるほか、その内容や構成、分量、記載方法についても適切であり、教育研究活動等に関して新たな視点が得られるなど、総じて適切であると考えられる。

評価報告書等の公表については、全ての対象校がアンケート実施時点で自己評価書及び評価報告書をウェブサイト等で公表している。マスメディア等からの報道の適切性については、対象校からの肯定的な回答は必ずしも多くない。平成23年度は、認証評価機関10機関により組織される認証評価機関連絡協議会の下で、他の評価機関と合同で認証評価結果の記者発表を行っているが、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

今回の機関別認証評価においては意見申立てを行った対象校はなかったが、意見の申立ての実施方法やスケジュール、内容や対応の評価報告書への掲載については概ね適切であると考えられる。

#### (6) 評価の効果・影響について

対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響については、現状や課題の把握、改善の促進、評価に関する知識や技術の向上、組織的な運営や自己評価の重要性の浸透、意識の向上、個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与に概ね有効であると考えられる。

対象校が評価を受けたことによる効果・影響については、前述の自己評価を行ったことによる効果・影響に加え、教職員への評価結果の内容の浸透、質の保証、学

生や社会からの理解と支持に概ね有効であると考えられる。また、他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にすることにも効果・影響があると考えられる。

評価結果の活用については、対象校から具体的な改善取組事例が挙げられ、対象校が評価結果をもとに改善・向上に取り組んでいることが分かる。今後も引き続き、機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

#### (7) 評価の作業量等について

評価に費やした対象校の作業量及び作業期間については、意見の申立てに係る作業量及び作業期間は適切であると考えられるが、自己評価書の作成、「訪問調査時の確認事項」への対応、訪問調査の事前準備、訪問調査当日の対応に係る作業量及び作業期間については、大きい、長いあるいは短いとする回答が寄せられている。一方、対象校が評価に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと評価されている。これらのことから、対象校は、評価の目的には概ね見合うと考えているものの、評価に費やす作業に対して負担を感じていると考えられ、今後も引き続き、評価の効率化に努める必要がある。

また、評価に費やした評価担当者の作業量及び作業期間については、訪問調査及び評価結果（原案）の作成に係る作業量及び作業期間、並びに自己評価書の書面調査に係る作業期間は概ね適切であると考えられるが、自己評価書の書面調査に係る作業量については、大きいとする回答も寄せられている。評価担当者が評価に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと評価されているが、今後も引き続き、評価担当者の負担軽減を図る必要がある。

評価のスケジュールについては、自己評価書の提出時期及び訪問調査の実施時期は適切であると考えられる。

#### (8) 前回の認証評価受審の効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

前回の認証評価受審による効果・影響については、教育研究活動等の「改善の促進」には概ね効果・影響があったと考えられる一方で、「質の保証」「社会からの理解と支持」に効果・影響があったかについては、「どちらとも言えない」とする回答がやや多くみられた。

また、前回の評価と比較して、評価基準及び観点、説明会・研修会、訪問調査、評価結果（評価報告書）、評価の効果・影響、評価の作業量等については、概ね適切なものになったと考えられる。ただし、評価結果に関するマスメディア等の報道については、肯定的な回答が必ずしも多くなく、認証評価の社会的認知度の向上につ

いては、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

(9) 評価についての全般的な意見・感想について

評価についての全般的な意見・感想については、対象校からは、機構の評価を受けた感想として、期待どおりであったとする感想が寄せられた一方で、労力の軽減に向けた改善を望む意見等も寄せられた。

一方、評価担当者からは、今回の評価により貴重な経験ができたとする感想があったほか、評価報告書の読みやすさについての意見等も寄せられた。

今回の検証によって、前回の受審時と比較して、評価プロセスについて対象校から肯定的に評価されているようにこれまでの検証を活かした改善が評価されつつあることが分かった。しかしながら、一方で、対象校、評価担当者双方から機構の行う現行の認証評価に対する意見・要望も見られたことから、更なる改善の必要性も示唆された。

認証評価の改善については、対象校が評価の経験を重ねることにより、自己評価書作成等の効率化が図られることが期待されるが、機構においても、寄せられた意見等を踏まえて、引き続き、認証評価の趣旨の更なる周知や実施方法等に関する合理化、効率化の取組等について検討していくことが必要であると考えられる。

# 参 考 资 料

## 参考資料 目次

- 1 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
- 2 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
- 3 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
- 4 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
- 5 認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】
- 6 認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の高等専門学校や個人等が特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】  
【高等専門学校】

1. 評価基準及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関1-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	3	1	2	0	0	6	4.17	0
		50%	17%	33%	0%	0%	100%		
機関1-	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関1-	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	2	3	1	0	0	6	4.17	0
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
機関1-	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	4	1	1	0	0	6	4.50	0
		67%	17%	17%	0%	0%	100%		

【2:ある 1:ない】

		2	1	計	平均	未回答
機関1-	⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった	1	5	6	1.17	0
		17%	83%	100%		
機関1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	1	5	6	1.17	0
		17%	83%	100%		

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)	① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(1)	② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた	0	3	3	0	0	6	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		

【2:迷った 1:迷っていない】

		2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)	③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	3	3	6	1.50	0
		50%	50%	100%		

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)	④ 対象校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた	0	6	0	0	0	6	4.00	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(1)	⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった	1	5	0	0	0	6	4.17	0
		17%	83%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(1)	⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	1	3	1	1	0	6	3.67	0
		17%	50%	17%	17%	0%	100%		

【2:参考にした 1:参考にしなかった】

		2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)	⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした	3	3	6	1.50	0
		50%	50%	100%		

(2) 訪問調査等について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(2)	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	2	2	2	0	0	6	4.00	0
		33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	③ 訪問調査時に機構の評価担当者(事務担当者を除く。以下同様。)が質問した内容は適切であった	2	3	1	0	0	6	4.17	0
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	④ 訪問調査の実施内容として、大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	3	3	0	0	0	6	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	⑤ 訪問調査の実施内容(大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった	1	4	1	0	0	6	4.00	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	⑥ 訪問調査の実施内容(大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった	1	3	1	1	0	6	3.67	0
		17%	50%	17%	17%	0%	100%		
機関2-(2)	⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	3	3	0	0	0	6	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		

機関2-(2)	⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	3	3	0	0	0	6	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		

(3)意見の申立てについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)	① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	3	3	0	0	0	6	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(3)	② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった	3	0	2	1	0	6	3.83	0
		50%	0%	33%	17%	0%	100%		
機関2-(3)	③ 対象校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった	0	0	0	0	0	0	-	0
		-	-	-	-	-	-		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

<作業量>

【5:とても大きい～3:適当～1:とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(1)	① 自己評価書の作成	3	2	1	0	0	6	4.33	0
		50%	33%	17%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	③ 訪問調査のための事前準備	0	4	2	0	0	6	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	④ 訪問調査当日の対応	0	3	2	0	1	6	3.17	0
		0%	50%	33%	0%	17%	100%		
機関3-(1)	⑤ 意見の申立て	0	0	4	1	0	5	2.80	0
		0%	0%	80%	20%	0%	100%		

<作業期間>

【5:とても長い～3:適当～1:とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(1)	① 自己評価書の作成	2	1	3	0	0	6	3.83	0
		33%	17%	50%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	0	1	2	1	2	6	2.33	0
		0%	17%	33%	17%	33%	100%		
機関3-(1)	③ 訪問調査のための事前準備	0	2	3	1	0	6	3.17	0
		0%	33%	50%	17%	0%	100%		
機関3-(1)	④ 訪問調査当日の対応	0	2	3	0	1	6	3.00	0
		0%	33%	50%	0%	17%	100%		
機関3-(1)	⑤ 意見の申立て	0	0	4	1	0	5	2.80	0
		0%	0%	80%	20%	0%	100%		

(2) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(2)	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	2	1	3	0	0	6	3.83	0
		33%	17%	50%	0%	0%	100%		
機関3-(2)	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	3	2	1	0	0	6	4.33	0
		50%	33%	17%	0%	0%	100%		
機関3-(2)	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		

(3) 評価のスケジュールについて

【2:適当 1:適当でない】

		2	1	計	平均	未回答
機関3-(3)	① 自己評価書の提出時期(6月末)は適当であった	6	0	6	2.00	0
		100%	0%	100%		
機関3-(3)	② 訪問調査の実施時期(10月上旬～12月中旬)は適当であった	6	0	6	2.00	0
		100%	0%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 説明会の配付資料は理解しやすかった	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
機関4-	② 説明会の内容は理解しやすかった	2	2	2	0	0	6	4.00	0
		33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関4-	③ 説明会の内容は役立った	2	3	1	0	0	6	4.17	0
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
機関4-	④ 自己評価担当者等に対する研修会の配布資料は理解しやすかった	2	2	2	0	0	6	4.00	0
		33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関4-	⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	2	2	2	0	0	6	4.00	0
		33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関4-	⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	2	3	0	1	0	6	4.00	0
		33%	50%	0%	17%	0%	100%		
機関4-	⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関4-	⑧ 機構が行った訪問説明は役立った	3	1	0	0	0	4	4.75	0
		75%	25%	0%	0%	0%	100%		
機関4-	⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった	2	3	1	0	0	6	4.17	0
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

(1) 評価報告書の内容等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5-(1)	① 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	3	3	0	0	0	6	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった	2	3	1	0	0	6	4.17	0
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	3	3	0	0	0	6	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	5	1	0	0	0	6	4.83	0
		83%	17%	0%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	2	3	0	1	0	6	4.00	0
		33%	50%	0%	17%	0%	100%		
機関5-(1)	⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	2	1	3	0	0	6	3.83	0
		33%	17%	50%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	4	1	1	0	0	6	4.50	0
		67%	17%	17%	0%	0%	100%		
機関5-(1)	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

【2: している 1: していない】

		2	1	計	平均	未回答
機関5-(2)	① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している	6	0	6	2.00	0
		100%	0%	100%		
機関5-(2)	② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している	6	0	6	2.00	0
		100%	0%	100%		

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5-(3)	① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた	1	0	3	0	0	4	3.50	2
		25%	0%	75%	0%	0%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(1)	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができた	4	2	0	0	0	6	4.67	0
		67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進した	3	2	1	0	0	6	4.33	0
		50%	33%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立った	0	4	2	0	0	6	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進した	0	4	2	0	0	6	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑧ 対象校の個性的な取組を促進した	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	1	4	1	0	0	6	4.00	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	0	5	1	0	0	6	3.83	0
		0%	83%	17%	0%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(2)	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができる	3	3	0	0	0	6	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	1	4	1	0	0	6	4.00	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進する	1	5	0	0	0	6	4.17	0
		17%	83%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立つ	1	4	1	0	0	6	4.00	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進する	0	5	1	0	0	6	3.83	0
		0%	83%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑧ 対象校の個性的な取組を促進する	4	2	0	0	0	6	4.67	0
		67%	33%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する	2	2	2	0	0	6	4.00	0
		33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	0	5	1	0	0	6	3.83	0
		0%	83%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑫ 対象校の教育研究活動等の質が保証される	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑬ 学生(今後入学する学生を含む)の理解と支持が得られる	1	2	3	0	0	6	3.67	0
		17%	33%	50%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑭ 広く社会の理解と支持が得られる	2	3	1	0	0	6	4.17	0
		33%	50%	17%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする	0	4	2	0	0	6	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

(1) 今回の評価(機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。)を契機として課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項(または実施済みの事項)について

(省略)

(2) 今後、次のような事柄に評価報告書を用いる予定について(複数回答可)

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他(具体的に)

1	2	3	4	5
5	6	0	2	1

9. 前回の認証評価を受審したことによる効果・影響について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関9-	① 前回の認証評価の受審により、貴校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	0	3	3	0	0	6	3.50	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
機関9-	② 前回の認証評価の受審により、貴校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	0	4	2	0	0	6	3.67	0
		0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関9-	③ 前回の認証評価の受審により、貴校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	0	1	5	0	0	6	3.17	0
		0%	17%	83%	0%	0%	100%		

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関10-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった	2	4	0	0	0	6	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関10-	② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった	1	4	1	0	0	6	4.00	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		
機関10-	③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった	1	5	0	0	0	6	4.17	0
		17%	83%	0%	0%	0%	100%		
機関10-	④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった	1	2	2	1	0	6	3.50	0
		17%	33%	33%	17%	0%	100%		
機関10-	⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
機関10-	⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった	1	5	0	0	0	6	4.17	0
		17%	83%	0%	0%	0%	100%		
機関10-	⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった	1	4	1	0	0	6	4.00	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		
機関10-	⑧ 貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった	1	3	2	0	0	6	3.83	0
		17%	50%	33%	0%	0%	100%		
機関10-	⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった	0	1	5	0	0	6	3.17	0
		0%	17%	83%	0%	0%	100%		
機関10-	⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった	1	2	3	0	0	6	3.67	0
		17%	33%	50%	0%	0%	100%		
機関10-	⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	1	4	1	0	0	6	4.00	0
		17%	67%	17%	0%	0%	100%		

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】  
【高等専門学校】

1. 評価基準及び観点について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評1-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	1	8	1	0	0	10	4	0
		10%	80%	10%	0%	0%	100%		
評1-	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	3	5	2	0	0	10	4.1	0
		30%	50%	20%	0%	0%	100%		
評1-	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	1	7	2	0	0	10	3.9	0
		10%	70%	20%	0%	0%	100%		
評1-	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	4	5	0	0	0	9	4.44	1
		44%	56%	0%	0%	0%	100%		

【2: ある 1: ない】

		2	1	計	平均	未回答
評1-	⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	3	7	10	1.3	0
		30%	70%	100%		
評1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	1	8	9	1.11	1
		11%	89%	100%		

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(1)-	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	0	2	7	1	0	10	3.1	0
		0%	20%	70%	10%	0%	100%		
評2-(1)-	② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	0	5	5	0	0	10	3.5	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
評2-(1)-	③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	0	3	6	1	0	10	3.2	0
		0%	30%	60%	10%	0%	100%		

(2) 書面調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(2)-	① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	1	6	3	0	0	10	3.8	0
		10%	60%	30%	0%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	0	2	7	0	1	10	3	0
		0%	20%	70%	0%	10%	100%		

(3) 訪問調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(3)-	① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	1	5	2	0	0	8	3.88	0
		13%	63%	25%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	0	8	0	0	0	8	4	0
		0%	100%	0%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	4	2	1	0	0	7	4.43	0
		57%	29%	14%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	④ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった	1	4	2	0	0	7	3.86	0
		14%	57%	29%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑤ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった	1	3	2	1	0	7	3.57	0
		14%	43%	29%	14%	0%	100%		
評2-(3)-	⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	0	5	2	0	0	7	3.71	0
		0%	71%	29%	0%	0%	100%		

評2-(3)-	⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者(事務担当者を除く)の人数や構成は適切であった	0	4	3	0	0	7	3.57	0
		0%	57%	43%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった	5	2	0	0	0	7	4.71	0
		71%	29%	0%	0%	0%	100%		

(4) 評価結果について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(4)-	① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	2	6	2	0	0	10	4	0
		20%	60%	20%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	1	7	1	1	0	10	3.8	0
		10%	70%	10%	10%	0%	100%		
評2-(4)-	③ 評価結果全体としての分量は適切であった	0	8	1	1	0	10	3.7	0
		0%	80%	10%	10%	0%	100%		
評2-(4)-	④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	1	7	2	0	0	10	3.9	0
		10%	70%	20%	0%	0%	100%		

3. 研修について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評3-	① 研修の配付資料は理解しやすかった	0	5	2	0	0	7	3.71	0
		0%	71%	29%	0%	0%	100%		
評3-	② 研修の説明内容は理解しやすかった	0	5	2	0	0	7	3.71	0
		0%	71%	29%	0%	0%	100%		
評3-	③ 研修の内容は役立った	2	4	1	0	0	7	4.14	0
		29%	57%	14%	0%	0%	100%		
評3-	④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った	1	4	2	0	0	7	3.86	0
		14%	57%	29%	0%	0%	100%		
評3-	⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	0	4	3	0	0	7	3.57	0
		0%	57%	43%	0%	0%	100%		

4. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

<作業量>

【5: とても大きい～3: 適当～1: とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査	2	4	2	0	0	8	4	2
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加	1	2	3	0	0	6	3.67	1
		17%	33%	50%	0%	0%	100%		
評4-(1)-	③ 評価結果(原案)の作成	1	2	5	0	0	8	3.5	2
		13%	25%	63%	0%	0%	100%		

<作業期間>

【5: とても長い～3: 適当～1: とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査	1	0	6	2	0	9	3	1
		11%	0%	67%	22%	0%	100%		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加	1	0	4	2	0	7	3	1
		14%	0%	57%	29%	0%	100%		
評4-(1)-	③ 評価結果(原案)の作成	1	0	6	1	0	8	3.13	2
		13%	0%	75%	13%	0%	100%		

(2) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(2)-	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	0	8	1	0	0	9	3.89	1
		0%	89%	11%	0%	0%	100%		
評4-(2)-	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった	0	8	1	0	0	9	3.89	1
		0%	89%	11%	0%	0%	100%		

評4-(2)-	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	0	5	4	0	0	9	3.56	1
		0%	56%	44%	0%	0%	100%		

(3) 評価作業にかかった時間数について

		計	平均	1校当たりの平均	未回答
評4-(3)-	① 自己評価書の書面調査	6	56.5 時間	28 時間/1校	4
評4-(3)-	② 訪問調査の準備	5	16.4 時間	8.2 時間/1校	2
評4-(3)-	③ 評価結果(原案)の作成	6	9.17 時間	4.42 時間/1校	4

5. 評価部会等の運営について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評5-	① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	0	7	2	1	0	10	3.6	0
		0%	70%	20%	10%	0%	100%		
評5-	② 部会運営は円滑であった	1	8	1	0	0	10	4	0
		10%	80%	10%	0%	0%	100%		

6. 評価全般について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評6-	① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う	1	7	2	0	0	10	3.9	0
		10%	70%	20%	0%	0%	100%		
評6-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	1	9	0	0	0	10	4.1	0
		10%	90%	0%	0%	0%	100%		
評6-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	0	5	5	0	0	10	3.5	0
		0%	50%	50%	0%	0%	100%		
評6-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	0	8	2	0	0	10	3.8	0
		0%	80%	20%	0%	0%	100%		
評6-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	1	6	0	2	0	9	3.67	1
		11%	67%	0%	22%	0%	100%		
評6-	⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	3	6	1	0	0	10	4.2	0
		30%	60%	10%	0%	0%	100%		

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評7-	① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	0	3	6	0	0	9	3.33	1
		0%	33%	67%	0%	0%	100%		
評7-	② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	1	4	3	0	0	8	3.75	2
		13%	50%	38%	0%	0%	100%		
評7-	③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	0	1	7	0	0	8	3.13	2
		0%	13%	88%	0%	0%	100%		

**認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】**  
**（高等専門学校）**

**1. 評価基準及び観点について**

**⑤自己評価しにくかった評価基準又は観点について**

（基準3）「教員及び教育支援者等」

- ・ 観点3-2-① 把握された事項と適切な取組を関連づける事は難しい。

（基準6）「教育の成果」

- ・ 基準6 教育目的の各項目と、教育の成果を直接結びつけることは困難である。

（基準9）「教育の質の向上及び改善のためのシステム」

- ・ 基準9 教育の質の向上や改善が必要であることは明白であるが、これがシステムとして機能しているかは検証が難しい。本校として弱い部分であることも改めて認識させられた。

**⑥重複していると思われる評価基準又は観点について**

（その他）

- ・ 観点9-1-②と観点11-2-①

観点9は、教育の状況に関する自己点検評価、観点11は、高等専門学校の活動の総合的な状況に関する自己点検評価との区分はあるものの、自己点検・評価が学校として策定した基準に基づき適切に行われているかという共通した事項となっている。本校の場合、自己点検評価項目は、教育、研究、学生支援等学校運営全般に渡っているものであり、この観点の自己評価書の記述も同じような記述となっており、添付資料も同様の資料を添付するなど重複している。

**○評価基準及び観点についての意見、感想など**

- ・ 各基準のテーマ自体は妥当であると考えられるが、それぞれの観点については、内容が非常に細かい部分（書きづらい部分）にまでわたっている。そのため、自己評価書を書くために膨大な資料を用意しなければならず、執筆にも多くの時間が費やされた。これはかなり学校にとって負担である。

一方、学校として弱い部分や足りない部分を改めて見直す機会になったともいえる。

**2. 評価の方法及び内容について**

**（1）自己評価について**

**③自己評価書に添付する資料で迷った点について**

- ・ 観点で求められていることと、用意した資料がマッチしているか判断に迷った場合があった。
- ・ 何年分のエビデンス資料を添付すべきか、基準や観点により迷うことがあった。

【対象校】

- ・ 的を射たエビデンスであるか否かに迷った。
- ・ 個人情報の入った資料の扱いに迷った。

#### ⑥自己評価書の文字数制限に関し、必要と思われる文字数について

- ・ 本文の文字数 5,000 文字／基準は、制約としてではなく目安として欲しい。

#### ○自己評価についての意見、感想など

- ・ 字数制限のため、自己評価書における添付資料の説明が充分でなく、機構側から幾つかの点において質問をうけた。添付資料中に、資料の説明を加えることで対応したが、この方式が予め、機構側の説明資料があれば、良かったと思う。
- ・ 基準 5 のボリュームが他の基準に比べ著しく大きくなることは明白であるため、文字数制限を他の基準の 2 倍程度に設定しておくのがよい。
- ・ 前回の認証評価においては、全般的に各基準の観点に係る状況及び分析結果等について、具体的に何をどのように記述すべきか分からなかった事項が多数あった。

前回指摘された事項を参考にし、なおかつ、機構で作成された「自己評価書イメージ」を活用したため、今回の自己評価書の作成において、特に困ったことはなかった。

#### (2) 訪問調査等について

#### ⑥訪問調査の実施内容として、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかについて

- ・ 訪問調査の日程が 1.5 日のスケジュールであり、やむを得ないとは思いますが、時に、教育現場の視察・学習環境の状況調査の時間が 1 時間しかなく、その割に指定された授業・実習等の数が多く、1 か所 2、3 分程度で駆け足で見て回ったというのが現状であります。多くのカリキュラムの中から絞って指定されていることは理解しておりますが、更に絞って、1 時間で十分に内容を確認できる位まで絞る必要があるのではないかと思います。

#### ○訪問調査等についての意見、感想など

- ・ 訪問調査団の趣旨が、「本校の良い取組を見逃すことなく、公表できるようにすること」であることを明言され、「調査対象校のあらを見つけ出す」目的ではないのが大変よい視点であると感じた。
- ・ 教育現場の視察及び学習環境の状況調査において、視察時間に対して視察箇所が多過ぎ、十分に現状を理解して頂いているのか疑問に感じました。
- ・ 「書面調査による分析状況」及び「訪問調査時の確認事項」は妥当なもので、訪問調査の実施内容も適切であった。本校は 2 回目の受審であり、訪問調査に対する準備や調査時の対応について、困ったことや不明な事項は特になかった。

### 3. 評価の作業量、スケジュール等について

#### (1) 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

【対象校】

### ○評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についての意見、感想など

(具体的にどのような作業において作業量・作業期間が大きかったか・長かったかについて)

- ・ 観点に応じた資料を作成あるいは収集することが大変であった。
- ・ やはり、自己評価書の作成に膨大な時間を費やしました。

2年前から認証評価ワーキンググループを設置し、自己評価書の作成方法の研修等受講や取りまとめ方法及びエビデンスの収集方法について隔月に1回ワーキンググループを開催し議論しながら進めて来ました。自己評価書の記述はもちろんのこと、裏付けとなる調査及びエビデンス等の収集にかなり時間をかけました。

- ・ 「訪問調査時の確認事項」への対応について、通知から回答までの期限が短く、取りまとめにおいて、作業量は多く、作業期間は短い(作業時間の集中)状況だったので、担当の先生方の労力はかなりの負担となったと思います。全体の評価スケジュールからしてやむを得ないのかも知れませんが、もう少し余裕が欲しいと思います。
- ・ 自己評価書の作成にあたり、エビデンスの選択及び収集作業に大きな作業量・長い作業期間を要した。

### (2) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

#### ○評価作業に費やした労力についての意見、感想など

- ・ 評価を受けることで、本校の優れた点や劣っている点が明らかとなり、必要な取組もある程度行われた。その意味では評価のための労力が報われたともいえるが、評価のための労力は無視できない。
- ・ 自己評価書作成を担当された先生方は、自分の教育、研究に係る時間を割いて、膨大な自己評価書の作成に携わったこともあり、法律で認証評価を受審する義務を負っているとはいえ、それにより本来業務である教育、研究の時間が割かれてしまうというのは、何か矛盾を感じます。

自己点検・評価、J A B E E (日本技術者教育認定機構)、機関別認証評価等の外部評価等々は確かに大切に実施しなければいけないことは明確ではありますが、全国の各大学、高等専門学校もいろいろな評価を受けるための対応に追われ、それぞれの機関自体が「評価疲れ」しているのが現状だと思います。

自己評価書作成において、現方式ですと、どうしてもあれもこれもできるだけ多くを盛り込んで示さなければならないという意識が働き、自ら労力の増加を招いている面もあるように感じます。自己評価書に記載すべき必要な事項や資料を厳選して頂き、真に必要なとする最小限のものを明確に示して頂けると有り難く思います。過去の実施例等から、不要な資料や記述等の例も説明会等で示して頂けると有り難く思います。

- ・ 本校の教育研究や管理運営の改善にあたり、評価基準を参考とした。ここ数年の学校改革は大変な労力であったが、学校の改善にとって極めて効果があったと評価している。

### (3) 評価のスケジュールについて

【対象校】

○評価のスケジュールについての意見、感想など

- ・ スケジュールは適当と思われる。訪問調査の時期としては、こちらの要望どおりに行われたので、問題ない。

4. 説明会・研修会等について

○説明会・研修会等についての意見、感想など

- ・ 説明会や研修会は、一度評価を経験した者にとっては意味のあることと思われる。評価を経験していない者にとっては、表面的なことしかわからない（当然のことであるが）。項目ごとに例を挙げながら説明頂ければ、より理解し易かった。
- ・ 本校への訪問説明を行って頂きましたが、学内の多くの教職員へ機関別認証評価の趣旨と自己評価書作成等における重要ポイントの理解を図る上で非常に有益でした。

5. 評価結果（評価報告書）について

(1) 評価報告書の内容等について

○評価結果（評価報告書）についての意見、感想など

- ・ 本校の優れた点に関する記述は大変励みになる。
- ・ マスメディア等への報道について、評価結果が特に新聞等に掲載されたという報告もないし、地元新聞にも掲載されておらず、機関別認証評価に対する社会の関心はあまりないのではないかと感じました。（一部には関心を持たれているとは思いますが。）その一方で、良い評価の時は関心がなく、決定的な改善点の指摘等があった時には報道機関で酷評されるというのは、評価結果だけでなく一般的なことなので、そういった意味では、何も反応が無いというのは良い評価の現れだったのかとも思っています。
- ・ 本校で取り組んでいる教育研究活動の重点項目については、評価されている。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

○自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

- ・ 資料の収集を日頃行うことの大切さ及び取組を行った際の効果について日頃から検証をしておくことの必要性を認識した。
- ・ 本校の教育研究活動等の改善の促進に効果があった。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

○機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

- ・ 本校の自己評価が、評価結果により確認され、今後の管理運営を自信をもって行うことができる。

7. 評価結果の活用について

【対象校】

- ①今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について  
○主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（基準1）「高等専門学校の目的」

- ・【課題】 特に準学士課程の学生への学校の目的や教育目標についての認知度が低い。  
【変更・改善】 教務委員会で検討し、以下の2点の対応を行った。
  1. 学級日誌に教育目標を載せる。
  2. 各学科の教育目標を簡潔な言葉で言い表す。【5】
- ・【課題】 学生便覧では、総合システム工学プログラムの内容を説明する項目の後に準学士課程の内容を説明する項目が配置されており、学生への周知を考慮した配置となっていない。  
【変更・改善】 指摘を受けた内容について検討し、平成24年度の学生便覧から既に改善を行った。  
【4】

（基準5）「教育内容及び方法」

- ・【課題】 準学士課程の教育目的等についてわかりにくい。  
【変更・改善】 学生便覧、学校要覧に明記した。【5】
- ・【課題】 学生及び教職員への、本校の教育理念・学習教育目標等の認知度が一部不十分であることが自己評価書作成の準備段階でわかった。  
【変更・改善】 学内へのパネルの設置や教室への掲示をするなどの対策を施して認知度の向上を図ることができた。【3】
- ・【課題】 学修単位科目について、シラバスでの記載を含め具体的な事前・事後の学習等の指導が十分ではない。  
【変更・改善】 平成24年度より、学修単位科目について、シラバスでの記載を含め、ご指摘の事項を改善する。【4】
- ・【課題】 専攻科課程でのインターンシップへの取組が十分でない。  
【変更・改善】 専攻科課程におけるインターンシップの充実を図る。【5】
- ・【課題】 準学士課程と専攻科課程の教育目標を明確に区分する。  
【変更・改善】 モデル・コア・カリキュラムとコース制がスタートする（予定）平成26年度に明確化する。【4】

（基準6）「教育の成果」

- ・【課題】 訪問調査の結果報告の中で、「学生による達成度評価は行われているが、それに対する学生の関心と認知度が低い」という講評を頂いた。  
【変更・改善】 達成度評価の実施方法も含め改善の検討を開始している。【3】
- ・【課題】 準学士課程における（中略）学習目標の細目設定及び記述内容に一部専攻科課程との区

【対象校】

別が不明瞭な部分がある。

【変更・改善】 課程の区分を明確にした学習目標の細目設定等の見直しを進めている。【5】

- ・【課題】 専攻科課程において、学習・教育目標「(A) 豊かな人間性と社会的責任感の育成」に必要な授業科目が十分でない。

【変更・改善】 専攻科教育課程の大幅な改定を検討している。【5】

## 8. 評価の実施体制について

○評価の実施体制について、対象校が行っている方策・工夫等、その方策・工夫等についてよかった点、悪かった点等、その他感想について

- ・ 教務主事と総務課長補佐が中核となって自己評価書作成のためのワーキンググループ(教員13名、事務職員4名)を組織して受審の前年度から準備を開始した。各基準に対して可能な範囲で適任者を割り当て分担して自己評価書の原案作りを進めた。良かった点は、各担当者の負担を軽くすることができた点と、各学科及び各部署への情報伝達と協力依頼がワーキンググループメンバーを介して比較的スムーズに行えたことである。悪かった点は、自己評価書の文体や引用資料の統一性や、各基準間の関連や整合を図ることに苦勞する点が多かったことである。
- ・ 作業予定について十分な調整を図り、分担作業と集中作業を適切に運用した。

## 9. 前回の認証評価を受審したことによる効果・影響について

### ①教育研究活動等の質の保証に関する効果・影響について

- ・ シラバスの書き方について指摘があったが、この指摘に沿って、書き方を全教員に周知徹底させた。  
準学士課程の教育目標に対する達成度を直接評価する方法について指摘があり、これを改めた。
- ・ 前回の認証評価での指摘により、学生の達成度評価を継続的に実施するように改めたこと、専攻科修了生も含め卒業・修了生及び企業へのアンケート調査によりそれぞれの満足度等の調査を実施するなど、教育研究活動等の質を保証する体制を整えたことが前回認証評価の効果の一つである。
- ・ 日常的な自己点検意識が定着し、作成された資料が日常の諸活動の点検に活用されるようになった。

### ②教育研究活動等の改善の促進に関する効果・影響について

- ・ 学校の管理運営のPDCAサイクルに関して組織的な取組ができるようになった。
- ・ 前回の認証評価での指摘により、学生の達成度評価を継続的に実施するように改めたこと、専攻科修了生も含め卒業・修了生及び企業へのアンケート調査によりそれぞれの満足度等の調査を行うようにした。また、教員の教育研究活動を評価する方法を策定し実行に移した。
- ・ 近年、GP等申請提案型の教育研究活動プロジェクトへの取組意欲が高まってきた。
- ・ PDCAのシステムが明確になった。  
Plan(計画) → Do(実行) → Check(評価) → Act(改善)

【対象校】

### ③教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に関する効果・影響について

- ・ 地域社会や地域の企業等と連携・協働する機会が増加した。

### 10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

#### ○前頁の項目以外に良くなっていると思う事項について

- ・ 訪問調査が前は2泊2.5日で実施されたが、今回は1泊1.5日で実施され、受審者側にとっては負担軽減となった。

成績評価のエビデンス資料（試験答案等）を提示すべき教科目を訪問調査に先立って具体的に指定して頂いたため、準備のための負担が軽減された。

#### ○前頁の項目以外に悪くなっていると思う事項について

- ・ 訪問調査における授業及び施設・設備の視察において、前回よりも所要時間が短くなり、その反面、多くの視察箇所が指定され、視察スケジュールの作成が困難であった。1か所当りの視察時間が短く、十分に現状を理解して頂けていないのではないかと危惧する。

### 11. その他

#### ○実際に評価を受けて期待どおりだったかについて

- ・ 期待どおりであった。
- ・ 期待以上に高く評価して頂いたものと感謝しています。
- ・ 内部の人間では気づきにくい外部の評価者による発言内容が、以降の情報発信内容の大きなヒントとなっている。
- ・ ほぼ期待のとおりであった。

#### ○その他、当機構の行う評価についての意見等

- ・ 自己評価書作成にかかる労力の軽減に向けた改善を図って頂けるようお願いいたします。

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】  
（高等専門学校）

1. 評価基準及び観点について

⑤ 評価しにくい評価基準又は観点について

（基準5）「教育内容及び方法」

- ・ 基準3の観点3-2-①と②は、校長による人事評価システムの説明・解説だけにに基づき評価しており、適切に運用されているかとその効果についての評価はできなかった。

（基準10）「財務」

- ・ 観点10-2-③ 設備投資では、当該高等専門学校によっては国立高等専門学校機構の判断に影響されるところがかなり大きい。
- ・ 観点10-3-① 国立高等専門学校に限ればすべて回答が同じような表現になるので基準観点としては問題が残るように思う。
- ・ 観点10-2-③については、どこまで・どのように検討するかという点の判断が困難である。

⑥ 内容が重複する評価基準又は観点について

（その他）

- ・ 評価基準とは分離されているが、対象校の自己評価書で重複があった。
- ・ 重複と言うよりも、二つ以上の評価基準/観点に関連する対象事項があった。

○ 評価基準及び観点についての意見、感想など

- ・ 各観点は1項目につき、1点に絞った方がよい。たとえば、観点1-1-①で「目的が明確に定められ、その内容が目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。」となっているが、前半は「学校として」、後半は「学科として」なのだから、分けてしまう。
- ・ 各校が第1回目の受審と前後して、他の審査（例えばJABEE（日本技術者教育認定機構）等）も受審していることから、教育の使命、基本方針、達成目標や、学生の卒業時（又は修了時）に身に付けるべき学力、資質・能力が、準学士課程に専攻科課程を加えた7年間で示している学校が見受けられ、準学士課程と専攻科課程がそれぞれに明確になっていないか、ほぼ等しいと判断できるようなものとして周知されている場合があった。また、観点1-2-①の「目的が学校の構成員に周知されているか」についてのアンケート等において、その周知度について継続的な調査が実施されていなかったり、周知度が低いままであるなど、その取組に改善の余地があるなどの指摘がなされた。これは今後も同じケースがあることが示唆でき、説明会等、内容説明の機会に再度強調する必要があると考える。
- ・ 評価基準及び観点は良く練られていると思います。説明会等で配布された「留意点等について」

【評価担当者】

は、大変参考になりました。観点の要求する内容と異なる分析をする高等専門学校は、この資料をちゃんと読んでいないと思います。説明会でもっと強調されても良いかと思いました。

## 2. 評価の方法及び内容・結果について

### (1) 自己評価書について

#### ① 対象校の自己評価書の理解しにくかった点について

- ・ ある観点において、丁寧さを欠いている部分があったが、全体的にはよく書かれていると判断した。
- ・ 「書きぶり」が基準・観点ごとに異なっていて、「寄せ集め」のまま思想的な統一が取れていないと思われた。寄せ集めの結果として、「観点到る状況」と「自己評価の概要」の記述が異なる場合があった。自己評価書全体を通読して管理監督すべき担当者の不在が疑われる自己評価書であった。制限字数の解釈を間違えて「資料の文字数を含む」と解釈しており、結果として「観点到る状況」の記述が薄く、自己評価の内容が不十分であった。

#### ③ どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかについて

- ・ 現地調査ででてくる資料が多かった。

#### ○ 自己評価書の様式についての意見、感想など

- ・ 文字が小さかったり、不鮮明な資料があった。例えば、時間割。
- ・ 様式というよりは記載についての注意事項ですが、選択的評価事項A及びBについて、各高等専門学校の目的の記載に加えて、選択的評価事項に係る目的の記載が必要であり、その目的に対応した自己評価の部分が記述されていない学校があったので、事前に説明会等で強調する必要がある。
- ・ (1) ①で記入した制限字数については、第二サイクルで常識と思われたはずのことが理解されていない場合もあるということが露呈した。第一サイクル経験者がいない可能性も十分に考えられる。説明会等での改めての十分な周知をお願いしたい。最近はカラー印刷もかなり安価にできる時代になってきたので、資料の一部を参照する場合には、該当箇所を色枠で囲うなどの指示をしても良いのではないか。
- ・ 対象校によって区々であった。

### (2) 書面調査について

#### ② 書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ 優れた点、改善すべき点の過去のデータを事前に提示してあれば、訪問調査時の見方も変わると思う。
- ・ 学校によっては、教育・研究目的に沿った施設・設備関係のマスタープランの報告がなかった。あるいは、内部・外部監査が実施されているにもかかわらず、結果データが示されていない例があった。

【評価担当者】

○ 書面調査についての意見、感想など

- ・ 書面調査において、「何をどこまで」参照して良いのか。不明確だったように思われる。対象校のウェブサイト、大学評価・学位授与機構が持っている学校基本データのページ、R e a D（研究開発支援総合ディレクトリ）の研究者データベース等、積極的に使ってよいのではないかと。
- ・ あまりに表現統一に拘ると、評価結果が形式的に感じられることもある。

(3) 訪問調査について

② 訪問調査で確認できなかった点について

- ・ 最後まで出てこない資料があった。たとえば追認試験の問題や回答、その評価の状況等。

③ 訪問調査の実施内容の適切でなかった点について

- ・ 教育現場の視察を抜き打ちでやれば、実態が見られる。
- ・ 今回、責任者面談の前に、校長と評価担当者全員との面談が実施され、学校の運営方針や趣旨等、直接聞くことができた。この内容は評価委員の共通認識として、その後の評価に大いに役立ったと考える。

④ 訪問調査の実施方法の適切でなかった点について

- ・ 事前に出席を要請した学生ではなく、在学学生についてはその場で捕まえて聞いてみると実態が分かると思う。

⑤ 訪問調査の実施内容に係る時間配分の適切でなかった点について

- ・ 学校教育機能の評価の際の訪問調査が 1.5 日で済むとは考えられず、初めての訪問調査であったが、あまりにも短過ぎるように思える。
- ・ 訪問調査の実施内容は適切であるが、教育現場の視察及び学習環境の状況調査において、特に教育現場の授業風景は、多くの観点に係ることなので、もう少し多めの機会があればと考える。

⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の適切な人数や構成について

- ・ 人数については最小限であると感じ、可能であれば評価専門委員をもう 1 名増やせればと感じた。

○ 訪問調査についての意見、感想など

- ・ 第 2 サイクルに当たって、機関別認証評価実施大綱の評価の目的とその基本方針等に沿って、厳しく実施しなければなりません。訪問調査が 1 日減ったからと言って認証評価が軽減される等の誤解を招いてはなりません。したがって、今回のように委員、評価専門委員並びに機構職員が、短時間に効率の良い調査を行えるよう、訪問調査前日から役割分担の確認や、意見交換等をしっかり行わなければならないと考える。

【評価担当者】

- ・ 今回の評価担当者数では、1泊2日の訪問調査は負荷が重く感じました。スケジュールに追われ、十分に調査できたかどうか、不安が残ります。確認事項をこなしながら成績評価資料に目を通すことも、十分な時間が取れなかったという印象を強くしています。機関別認証評価は「基準に達しているか」の機械的な判断だけではなく、「対象校の活動を拾い上げる」という考えを前面に押し出していると受け取っていますが、それが十分に行われたかどうか、疑問です。時間不足のために、評価担当教員が対象校に確認することも多くあったと推測しています。それはそれで、一つの方法ですが、評価部会員が蚊帳の外におかれる懸念が残ります。いつのまにか、「これこれが確認された」というような結論が出てしまっている、という面があったように思います。

#### (4) 評価結果について

##### ○ 評価結果についての意見、感想など

- ・ 評価結果と自己評価書の記述がかけ離れている場合があり、それは「訪問調査で確認」したことが反映されているわけですが、そのことを十分に理解できるのは関係者に限られるように思います。自己評価書の記述に関するコメント（「評価」ではきつすぎるので）を公表することは考えられないでしょうか。現状では、自己評価書の記述に関するコメントは、訪問調査の最終段階で対象校に口頭で伝えられるだけで、評価結果には含まれません。今のままでは、自己評価書は評価の手がかりにはなりますが、評価の論拠としては弱いものになってしまう場合があります。自己評価書が重要だということを対象校及び翌年度以降の該当校に知らせる必要があるように思います。自己評価書だけによる評価と訪問調査での確認を加えた評価を併記するという手法もあるかと思います。そうすれば、自己評価書の「出来」がどの程度かを簡単に推測できます。
- ・ 高等専門学校個別校について、観点10-1-①、10-2-②、10-3-①、10-3-②は実質的な意味を有していないと考えられる。

### 3. 研修について

##### ○ 研修についての意見、感想など

- ・ 今年度は対象校が少なく、評価部会是一个のグループという雰囲気でしたが、来年度以降も同じ体制で実施できるのかどうかは疑問が残ります。対象校が多くなると評価部会を複数のグループで構成せざるを得ず、評価結果のグループ間調整を円滑に進めるためには、研修が重要な要素となります。研修で不足を感じたのは、訪問調査についてのガイダンスです。今年度の結果を基に、シミュレーションを行ってみてはいかがでしょうか。自己評価書に記述されているが訪問調査で確認すべき事項とはどのようなことか、実際に現地でのどのように確認するのか。自己評価書に記述されていないことが訪問調査で判明した時にはどのように対処するのか、等々。また、表向きのスケジュールには出てこない成績資料の確認等はどのようなタイミングで実施するのか。出題について指摘する限界点についても確認する必要があると思います（部会員はそれぞれが教員ですので、自分の教育観で判断してしまいがちです）。来年度の研修会の時点では、今年度の評価結果は公表されているでしょうから、具体的に自己評価書と評価結果の比較や何故そうなったのかを説明することも良

【評価担当者】



となっており、評価部会員に高等専門学校教員が参加しているため、互いに実りある議論ができていと感じています。

- ・ 高等専門学校においては、教育研究活動等の質については一定の水準に達しているものと思われ、評価結果をどのように生かすかは評価対象校の取り組み方にかかっているものと考えられる。

### (3) 評価作業にかかった時間数について

#### ○ 評価作業にかかった時間数についての意見、感想など

- ・ 大変でした。はっきり言って勤務時間内で消化しようとする本務に支障がでます。
- ・ 自己評価書の書面調査は、日中の校務の間に作業をすることもあったが、集中して行いたいので、涼しくなった夜間を使っての作業が多くなった。また、訪問調査の準備や評価結果の作成等は、校務の空き時間を利用して行いました。平成 18 年度から 20 年度までの過去での経験より、今回多くの時間を費やしたが、その分多くのことを学んだ気がする。
- ・ ①については、「1 週間、毎日午後の 6 時間を使った」としています。既に過去のこととなり、どのくらいの時間を使ったのかは記憶の底に沈んでしまいました。来年度からは、このアンケートを研修時に部会員に提示してはいかがでしょうか。
- ・ 特に自己評価書の書面調査には、夏季休暇期間中のかなりの期間を費やし、負荷が大きかった。

## 5. 評価部会等の運営について

#### ○ 評価部会等の運営についての意見、感想など

- ・ 時間の確保に苦労しましたが、自分自身のためにもなりました。専門委員の方々からの情報は今後の参考になります。
- ・ 評価部会、専門部会の人数は最小限である。また、8 月の第 2 回目の部会の運営について、各校の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」の取組に対して審議したが、「優れた点」「改善を要する点」等の候補について、共通認識を持つ時間がもう少しあってもよいのではと感じた。
- ・ 事務局、専門委員のご尽力で「分析結果とその根拠理由」の問題点、ポイントがきちっと押さえられ、書面調査、訪問調査事前準備そして評価結果の作成等が円滑に進められ、部会運営は比較的順調に進められたと考えている。
- ・ 部会長、主査等の役割が曖昧だと感じました。もう少し役割を明示する方が良いかと思います。12 月の評価原案作成の部会では、何をどのように議論するのかが不明なまま、淡々と原案承認のような進行になってしまったかと思います。また、一つの高等専門学校が、いわば「特別扱い」のような評価となる場面がありましたが、公表されたときにそのことはだれにも分からないわけで、評価の公平性という点では疑問が残りました。また、評価部会が複数グループとなった場合、評価原案作成は慎重に行わなければならないと思います。議事進行に工夫が必要だと思います。

## 6. 評価全般について

#### ○ 評価全般（評価に携わっていただいていたことも含め）についての意見、感想など

【評価担当者】

- ・ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことが課題です。
- ・ 高等専門学校は今回から2巡目となるが、自己評価書を提出してきた学校によって、自己評価書の内容、質に開きがあり、前回の認証評価から、教育研究活動の質の向上が図られていると感じられる学校については、しっかりと自己評価書が記載されていたし、前回同様の学校も見受けられた。認証評価が、教育研究活動の質のより一層の向上に向けた活動へのインセンティブのようなものになっていくことを期待する。
- ・ 評価を行ってみて感じたことだが、高等専門学校は社会に役立つ人材の育成を目的とした高等教育機関であり、教育の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」が重要であることをあらためて認識した。今回、事情の異なる2校についても、目的を達成するために教職員が一丸となって取り組んでいる姿勢は素晴らしく、私自身多くのことを学ばせていただいた。
- ・ 7年ごとに認証評価機関のチェックを受けることは、教育組織として教育研究活動、管理運営及び財務等すべての面で常に改善の姿勢を持ち続けることを可能にすると思う。
- ・ 今回はきちんとした作業ができず申し訳ありませんでした。こうした評価システムの存在と意義は理解しておりましたが、財務の作業のルールのようなものになじめなかったという感はありました。今回のアンケートについては、今回の経験のみでは判断できない（相対的なものであると思う）項目については、どちらでもないとして記しています。扱いはお任せいたします。いずれにしても、私としてはよい経験となりました。取り急ぎお礼と感想まで。
- ・ 対象校及びその関係者には、このような評価をきちんと受け止めていただけたと思いますが、「社会の理解と支持を得る」点については、あまり実感がありません。評価報告書は、正確に記述されていることはもちろんですが、「読みやすい」ということも重要な視点だと思います。「社会の理解と支持を得る」ためにも、関係者以外が目を通すことを想定すれば、それが求められましょう。そのような視点で見ると、評価報告書は必ずしも読みやすいとはいえないように思います。一般の（たとえば新聞の）記述とくらべますと、「漢字の割合（30%程度が妥当といわれています）」が多く、紙面が黒っぽい」「1つの文が長い」「送りがなが“特殊”である」等が挙げられ、それが読みにくさにつながっているように感じています（ほかにもありましょうが）。一朝一夕には変更は困難でしょうが、このような視点でも、周囲の意見をうかがってみてはいかがでしょうか。
- ・ 評価部会員として参加させていただいたことは、私自身にとって大変良い勉強の機会を与えていただいたと感謝しております。各高等専門学校は評価されるという受け身の側にとどまらず、必ず評価部会員を出すという積極的な姿勢を持つべきだと思います。評価の基準及び観点についても、「やっていることはすべて拾い上げる」という認証評価は教職員の理解を得やすいように思います。認証評価は「出来ていることに丸を付ける」という加点方式であると感じます。評価する側とされる側であり、交流は難しいかもしれませんが、大学評価・学位授与機構と国立高等専門学校機構という独立行政法人同士で、人事交流等により評価事業の勉強をする職員がいても良いのではないかと思います。
- ・ 同じ評価（A、B、…）でも、各対象校ごとに、保証する教育研究活動の質のレベルが異なることについては疑問が残る。もちろん、各高等専門学校の改善の促進には繋がっていると思います。

【評価担当者】

## 7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

### ① 対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった点について

- ・ あいかわらずの点もあった。
- ・ 基準5の教育内容及び方法等の各観点において、教育の「質の保証」の新しい取組を行い、次のような評価を得ている。例えば、ものづくり技術者養成のための「コーオプ教育プロジェクト」を実施し、企業が求める人材の育成を行っている。また、高い職業意識・能力の育成として「キャリア教育」を構築し、実践するなど社会並びに学生のニーズに対して、技術者育成のための実践的な教育を推進し、進路先である企業及び進学先からの評価が高い結果を得ている。創造性豊かな人材の育成として、創造性を育む教科を新しく構築し、又は改善して実施することで、与えられたテーマに対して、問題を解決するための討論・対話を取り入れた問題解決型授業を行っている。それらの実践としてインターンシップを積極的に進め、その結果についても外部評価等で確認されている。
- ・ 質を保証するシステムが維持され、それにしただった教育がなされている。

### ② 対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった点について

- ・ 教育研究について、一般教科と専門科目、専門科目同士等各教員間の連携を密にすることによって、学生の学力水準の維持を図り、また各科目において、卒業（修了）時まで身に付ける学力や資質・能力について目標を定め、その成果をアンケート等で確認し、その結果を改善に結びつける、又は結びつける努力をするなど、各校が推進してきている。シラバスには、各科目の学習・教育目標を明確に示し、また評価方法や講義受講のコメント等の整備を行い、学修単位等についての説明を付記して、積極的な勉学の方向付けを行っている。そしてその結果、学生への周知が改善されてきている。
- ・ 改善システムが維持され、さまざまな取組がおこなわれている。
- ・ ある対象校では、一般・専門の連携による教育の展開、GP等の教育、支援、研究プログラムの展開とその中での地元連携の促進、国際交流の促進等、多様な活動の展開がみられた。また、別の対象校では、授業評価アンケートの完全公開と更なる解析及び公開、英語授業の展開、地元の生涯学習事業への参加等の工夫がみられた。

【評価担当者】

**対 象 校**

(高等専門学校用)

## 平成23年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名 \_\_\_\_\_

今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、1～11の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものゝ記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のまま結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のものについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。

### 【回答例】

強く      どちらとも      全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5)            (3)            (1)

回答例① .....は、適切であった -----

5	4	3	2	1	3
5	4	③	2	1	

回答例② .....は、適切であった -----

### (回答できない場合)

強く      どちらとも      全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5)            (3)            (1)

.....は、適切であった -----

5	4	3	2	1	－
---	---	---	---	---	---

# 1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## 2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### (1) 自己評価について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

迷った	迷っていない	
2	1	

→※③について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした -----

参考にした	参考にしなかった	
2	1	

・自己評価についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

④ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑥ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であると思うかをご記入ください。

--

⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 意見の申立てについて

強く      どちらとも      全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5)            (3)            (1)

① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

以下は、意見の申立てを行った対象校のみお答えください。

③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

### 3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間、(2) 評価作業に費やした労力、(3) 評価のスケジュールの3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

#### (1) 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

	<作業量>					<作業期間>						
	とても大きい		適当			とても小さい		とても長い		とても短い		
	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)		
① 自己評価書の作成 -----	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
③ 訪問調査のための事前準備 -----	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
④ 訪問調査当日の対応 -----	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
⑤ 意見の申立て -----	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

①～⑤について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量・作業期間が大きかったか・長かったかをご記入ください。

(2) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 評価のスケジュールについて

- ① 自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった  
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----
- ② 訪問調査の実施時期（10月上旬～12月中旬）は適当であった  
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----

適当	適当でない	
2	1	
2	1	

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想などをご記入ください。

#### 4. 説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。(⑧について、訪問説明を受けなかった対象校は回答欄に「-」をご記入ください。)

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)	
① 説明会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
② 説明会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
③ 説明会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1
④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1
⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1
⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った -----	5	4	3	2 1
⑧ 機構が行った訪問説明は役立った -----	5	4	3	2 1
⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応） は適切であった -----	5	4	3	2 1

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## 5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（1）評価報告書の内容等、（2）自己評価書及び評価報告書の公表、（3）評価結果に関するマスメディア等の報道の3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （1）評価報告書の内容等について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	5	4	3	2	1	
③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた ---	5	4	3	2	1	
⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった -----	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が分かりにくかったかをご記入ください。

⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった -----	5	4	3	2	1	
----------------------------------	---	---	---	---	---	--

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している

している	していない	
2	1	

② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している -----

2	1	
---	---	--

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## 6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

### (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)			
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた -----	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた -----	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した -----	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った -----	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2	1	
⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した -----	5	4	3	2	1	

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想などがありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる -----	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる -----	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する -----	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ -----	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2	1	
⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する -----	5	4	3	2	1	
⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する -----	5	4	3	2	1	
⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される -----	5	4	3	2	1	
⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2	1	
⑭ 広く社会の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2	1	
⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする -----	5	4	3	2	1	

・機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

## 7. 評価結果の活用について

① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

**注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。**

非常に参考になった ← なった → あまり参考に  
 (5) (3) (1)

課題	(記入例) 【基準6】卒業生のアンケート結果から見て、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	「外国語の能力」の達成度を向上させるため、来年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

- |                                |                        |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 貴校の広報誌に評価結果を掲載する。            | 2 貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。 |
| 3 資金獲得のための申請書に記載する。            | 4 学生募集の際に用いる。          |
| 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。 |                        |
| 6 その他（具体的に）                    |                        |

(

)

回答欄

## 8. 評価の実施体制について

貴校の評価の実施体制についてお教えてください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。

・評価（自己点検・評価、認証評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教えてください。「例」を適宜参考にし、わかりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいで結構です。

(記入例)

```
graph TD; A[自己点検・評価委員会] --- B[ワーキンググループ]; A --- C[評価推進室]; B --- D[〇〇学部作業チーム]; B --- E[〇〇〇〇];
```

自己点検・評価委員会  
(役割)：評価結果についての最終決定  
(形態)：常設  
(構成)：学長、理事、・・・  
(人数)：〇人

ワーキンググループ  
(役割)：評価結果の審議  
(形態)：常設  
(構成)：理事、各学部長・・・  
(人数)：〇人

評価推進室  
(役割)：評価に関する事務  
(形態)：常設  
(構成)：室長、係長・・・  
(人数)：〇人

〇〇学部作業チーム  
(役割)：データ等の収集・整理  
(形態)：臨時  
(構成)：〇〇学部長、・・・  
(人数)：〇人

〇〇〇〇

---

他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

・評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えてください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えてください。

## 9. 前回の認証評価を受審したことによる効果・影響について

前回の認証評価を受審したことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ① 前回の認証評価の受審により、貴校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ② 前回の認証評価の受審により、貴校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ③ 前回の認証評価の受審により、貴校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

## 10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

前回の認証評価を受審した時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

	非常に良く なっている (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	非常に悪く なっている (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった-----	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった ----	5	4	3	2	1	
⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった -----	5	4	3	2	1	
⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった-----	5	4	3	2	1	
⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	5	4	3	2	1	

・前頁の項目以外で良くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

・前頁の項目以外で悪くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

## 11. その他

- ・実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

- ・その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

**平成23年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート**

ご氏名 \_\_\_\_\_

今回、当機構の評価に携わっていただき、どのように感じられたか、以下の1～7の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」をご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強く      どちらとも      全くそう そう思う ← 言えない → 思わない (5)                      (3)                      (1)						
回答例① .....は、適切であった -----	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">5</td> <td style="width: 12.5%;">4</td> <td style="width: 12.5%;">3</td> <td style="width: 12.5%;">2</td> <td style="width: 12.5%;">1</td> <td style="width: 12.5%; border-left: 1px solid black;">3</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	3
5	4	3	2	1	3		
回答例② .....は、適切であった -----	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">5</td> <td style="width: 12.5%;">4</td> <td style="width: 12.5%;">③</td> <td style="width: 12.5%;">2</td> <td style="width: 12.5%;">1</td> <td style="width: 12.5%; border-left: 1px solid black;"></td> </tr> </table>	5	4	③	2	1	
5	4	③	2	1			

(回答できない場合)

	強く      どちらとも      全くそう そう思う ← 言えない → 思わない (5)                      (3)                      (1)						
.....は、適切であった -----	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">5</td> <td style="width: 12.5%;">4</td> <td style="width: 12.5%;">3</td> <td style="width: 12.5%;">2</td> <td style="width: 12.5%;">1</td> <td style="width: 12.5%; border-left: 1px solid black;">－</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	－
5	4	3	2	1	－		

# 1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## 2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（1）自己評価書、（2）書面調査、（3）訪問調査、（4）評価結果の4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （1）自己評価書について

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

--

② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

--

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想などをご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点などがあればお聞かせください）。

--

(2) 書面調査について

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

・書面調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

④ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

--

⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -	5	4	3	2	1	
② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価結果全体としての分量は適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった -----	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想などをご記入ください。

### 3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 研修の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
② 研修の説明内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
③ 研修の内容は役立った -----	5	4	3	2	1	
④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った -----	5	4	3	2	1	
⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった -----	5	4	3	2	1	

・ 研修についてご意見、ご感想などをご記入ください。

#### 4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間、(2) 評価作業に費やした労力、(3) 評価作業にかかった時間数の3項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

##### (1) 評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について

	<作業量>					<作業期間>						
	とても		とても			とても		とても				
	大きい	←	適当	→	小さい	長い	←	適当	→	短い		
	(5)		(3)		(1)	(5)		(3)		(1)		
① 自己評価書の書面調査 -----	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
② 訪問調査への参加 -----	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
③ 評価結果(原案)の作成 -----	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(2) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに概数でお答えください。

※1校あたりではなく、全体でかかった時間をご回答ください。

① 自己評価書の書面調査	およそ		時間
② 訪問調査の準備	およそ		時間
③ 評価結果（原案）の作成	およそ		時間

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## 5. 評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 部会運営は円滑であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価部会等の運営についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## 6. 評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響など評価全般について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ←言えない (3)	全くそう →思わない (1)			
① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う -----	5	4	3	2	1	
② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う ----	5	4	3	2	1	
③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----	5	4	3	2	1	
④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----	5	4	3	2	1	
⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	4	3	2	1	
⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった -----	5	4	3	2	1	

・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

## 7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった --

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。